

時の動き

許せない「戦争」発言

元私鉄東武労働者

土澤 長重

あきれた維新の会の

丸山議員の暴言

最近国会議員の暴言、妄言が、とりわけ自民党議員から飛び出しています。自民党議員の発言は安倍一強のおごりからと言えますが、今回は維新の会の丸山穂高衆院議員によるものです。

どんな発言かと言えば、すでに新聞・テレビで繰り返し報道されたので、良くご承知の事と思います。北方領土返還に関する発言でしたが、それはまさに、常軌を逸したものの、酒に酔っていたからとか、その場の雰囲気ではという次元のものでは有りません。議員

として、いや人間として絶対に口に出してはならないものなのです。

それが戦争を知らない35歳の「若造」の口から軽々と「戦争」の言葉が発せられた事にも、なおさら恐ろしさを感じます。

どんな発言だったのか

良くご承知とは言いましたが、簡単に説明しておきます。

5月11日、国後島への「ビザなし訪問」の最中、訪問団長の大塚小彌太氏（90）に対し「戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか」

などと発言したというものです。この時相当酔っていたようですが、本人は確信を持って発言していたことに間違いはありません。それは維新の会から党を除名されたものの、議員辞職については「言論の自由」だと開き直り、「絶対に辞職しない」と言っていることから明らかです。まさにトンデモ議員と言えるでしょう。こんな人物が国会議員を務めていることは、危険きわまりないことです。

維新の会も選挙対策としての除名処分よりも、何としても議員を辞めさせることに力を置くべきだったのではないのでしょうか。

国会議員の憲法遵守義務

そもそも日本国憲法は戦争放棄を憲法9条で謳っており、国会議員は憲法遵守義務があります。その国会議員の口から、憲法を無視する「戦争」発言が飛び出すことが大問題なのです。今回の発言以外にも様々な問題発言・行動のあると言われている丸山議員。こんな議員に「言論の自由」などと一言わせて国会議員のままにしておくことは絶対に許されません。

若者の戦争意識

丸山議員もそうですが、今の日本は



怒りの大塚小彌太団長

戦後生まれが大部分、戦争を経験した世代は、ごく少数派になっています。彼の発言に本心から恐怖を覚えた戦争体験者はほんのわずかではないでしょうか。何となく聞き流して、それほど大事と思わないでいる世代が多いのではないのだろうか、そちらを危惧します。

事実、戦前回帰を目指し、平和憲法を無視し、集団的自衛権も容認して、ひたすら「戦争への道」を歩んでいる安倍晋三を支持しているのが若者に多いというのが、それを物語っています。かつての自民党には戦争体験者も多々存在し、以前であれば、安倍のような人物が現れば、それにブレーキをかける覚悟が存在したものです。しかし、今はそれが全くと言って良いほど居ないのです。

私も戦後生まれです。当然戦争の経験はありません。父親は幸いにも兵隊にとられなかったので、戦争の経験談

を聞くことはほとんどありませんでした。

そう考えると今の若者は、戦争の経験談を聞く機会はほとんど無いと言って良いでしょう。戦争はゲームの中だけの世界になっています。

丸山議員の意識

丸山議員もそんな一人と思います。戦争がどんなに悲惨なものか、全くわかるうともせず、軽い「ノリ」で戦争を口にしてしまう無節操さと、無神経さ。少数派とは言え、戦争体験者の抗議が殺到していることも、全く考慮していません。

我々は第二、第三の丸山議員を出してはなりません。そのためにも断固平和憲法を守り抜く決意が求められます。

(つちざわ ちようじゆう)